

今週（9月28日から10月2日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、取り手の調達意欲が旺盛で、強含みの展開が続いた。四半期末となる9月30日は、一部調達サイドに様子見姿勢が見られたことで、レートが低下した。日銀当座預金残高は、1日の2Y発行、2日の10Y発行、法人税・年金保険料揚げを受け、480兆円台後半から470兆円台後半に減少した。無担保コールO/N加重平均レートは、週初は▲0.03%台前半で推移した。四半期末の9月30日こそ一旦▲0.061%に低下したものの、翌日には再び▲0.03%台前半へと上昇した。週末の2日は三日積みとなることで、邦銀・証券業態からの調達で▲0.045%～▲0.015%のレンジで出合いが見られるなど、更に強含む展開となった。ターム物の出合いは、週初は期末越えとなる取引を行えない先が多く、閑散であった。期明けの10月1日以降は、地銀業態を中心に資金調達意欲が強い中、1～2Wのショートタームで▲0.03～▲0.02%でまとまった出合いが見られた。

固定金利方式による共通担保資金供給オペは2日に2W物・20,000億円がオファーされ、2,311億円（期落ち額3,801億円）と札割れとなった。

●レポ市場

今週のGCT/Nは、期末越えの取引こそレートが低下したものの、受渡が10月に入ってからは投資家・業者の積極的な資金調達姿勢を受け、レートが上昇する展開となった。週初28日のT/Nは▲0.10～▲0.09%の出合いと前週並みの水準で推移した。翌29日のT/Nは受渡が9月末を跨ぐ取引となり、短国買入オペも実施されたことで▲0.12～▲0.095%の出合いとレートが低下した。翌30日のT/Nは受渡が10月となり投資家の資金調達姿勢が積極化したことで▲0.095～▲0.08%の出合い、翌1日のT/Nも▲0.085～▲0.07%出合いと一段とレートが上昇した。2日のT/Nは、短国3M物の発行日となったことで、▲0.075～▲0.07%の出合いで推移した。

SCについては、2y412～416、5y140～144、10y354～359、20y170～173、30y65～67、40y13などカレント銘柄を中心にビッドが多くみられた。

●短国市場

今週の短国市場は、週前半は、年末越えとなった3M物が▲0.180%近辺出合いと堅調に推移する一方で、6M・1Y物は▲0.160%近辺出合いと、前週と同水準で推移する展開となった。週後半に入ると、需給があまり良くないのか、3M～1Y物全ての気配がじりじりと上昇する展開となった。

29日に実施された短国買入オペは、前回と同額の1兆円でオファーされた。平均落札利回較差+0.009%、按分落札利回較差+0.006%と、やや弱めな結果となった。

2日に実施された3M物の入札は、WI取引において▲0.160～▲0.155%での出合いが見られる中、平均落札利回▲0.1525%、按分落札利回▲0.1418%と、軟調な結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットでは、入札よりもやや堅調な水準で推移した。

●CP市場

今週のCP市場は、四半期末の大量償還を迎えたため、償還総額2兆8,000億円程度に対して、発行総額1兆4,000億円程度と大幅な償還超のマーケットとなった。例年、四半期末は有利子負債削減により残高が減少する。ただ、今年は多くの企業が前倒しで長い期間の調達をしている影響からか、昨年の9月末償還と比較すると、償還額自体は減少した。銘柄については月末発行を中心に、商社、鉄鋼、電力等の業態で大型の発行が見られたほか、機械、不動産、食料品等の業態でもまとまった額の発行が見られた。市場発行残高は先週に引き続き高水準で推移した。9月末時点では2兆5,813億円まで減少したが、前年同月（17兆5,557億円）比では約5兆円程度の増加となった。発行レートについては、CP等買入オペ見合いや新型コロナ金融支援オペの担保確保の買いニーズからか、対象となる銘柄については大半がマイナス圏で推移している。

●備考

10月1日、東京証券取引所のシステム障害により、すべての上場銘柄が終日売買停止となった。これに伴い、日経平均株価については、9月30日の終値である2万3,185円12銭が10月1日の四本値として認定された。なお、10月1日午前9時以降、日経電子版などで前日終値に比べ19銭安の2万3,184円93銭として指数値が表示されていたが、これは1日の銘柄入れ替えに伴う除数の変更を9月30日終値に反映した値（参考値）である。

●短期金融市場関連指標

	日経平均 (円)	新発10年物 国債利回り (%)	為替 (ドル/円中心相場)	無担保コールO/N (加重平均・%)	東京レポレート(翌日物・ T+1スタート・%)	日銀当座預金残高 (億円)
9/28 (月)	23,511.62	0.020	105.39	△ 0.032	△ 0.097	4,871,800
9/29 (火)	23,539.10	0.015	105.47	△ 0.031	△ 0.111	4,879,700
9/30 (水)	23,185.12	0.010	105.79	△ 0.061	△ 0.096	4,874,600
10/1 (木)	23,185.12	0.020	105.54	△ 0.031	△ 0.081	4,850,700
10/2 (金)	23,029.90	0.015	105.56	△ 0.022	△ 0.075	4,780,200

来週（10月5日から10月9日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定		海外主要経済指標
10/5 (月)	全国証券大会において黒田日銀総裁講演 10月の日銀当座預金増減要因見込み(日銀 8:50)			9月のISM 非製造業景況指数
10/6 (火)		30Y 9,000億円 10/7発行		8月の米貿易収支
10/7 (水)	9月のマネタリーベースと日本銀行の取引(日銀 8:50) 8月の景気動向指数速報(内閣府 14:00)	交付税借入 11,000億円 10/16借入		8月の米消費者信用残高
10/8 (木)	8月の国際収支(財務省所管・日銀作成 8:50) 9月の景気ウォッチャー調査(内閣府)	TB6M 38,000億円 10/12発行	5Y 25,000億円 10/8発行	
10/9 (金)	8月の全世帯家計調査(総務省 8:30) 8月の毎月勤労統計調査速報(厚生労働省 8:30) 8月の特定サービス産業動態統計速報(経済産業省 13:30)	TB3M 75,500億円 10/12発行	エネルギー 対策借入 7,000億円 10/20借入	8月の米卸売売上高

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
10/5 (月)	900	▲ 28,500	▲ 27,600	国債買入 全店共通 CP買入	▲ 3,800 ▲ 400	5,800 2,300	3,900	▲ 23,700	TB3M発行▲75500償還45500
10/6 (火)	1,000	0	1,000				0	1,000	恩給
10/7 (水)	0	▲ 5,000	▲ 5,000				0	▲ 5,000	30Y発行▲7000
10/8 (木)	0	1,000	1,000	社債買入		3,000	3,000	4,000	
10/9 (金)	0	▲ 25,000	▲ 25,000	国債売現先(米ドル)	2,200		2,200	▲ 22,800	5Y発行▲25000 交付税借入▲10000期日11000
週間合計	1,900	▲ 57,500	▲ 55,600	—	▲ 2,000	11,100	9,100	▲ 46,500	

10/5は日銀予想、10/6以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、各種オペによってマクロ加算残高が大幅に増加していることから、引き続き資金調達ニーズは堅調に推移することが見込まれる。無担保コールO/N物加重平均レートは強含みでの推移を予想する。また、9日には「2020年10月積み期間に適用する基準比率」が発表される予定となっている。レボ市場は、利付債・短国の入札回数が多く、▲0.08～▲0.06%程度と一段とレートが甘くなる展開が予想される。短国市場は、8日に6M物の入札、9日に3M物の入札が実施予定となっている。需給やレート水準を含め、市場動向が注目される。また、6日に予定されている短国買入オペのオフア額にも注目したい。CP市場は、期明けの発行で市場残高がどれほど積み上がるかが注目される。主要なイベントは、特段無い。

- ◆本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- ◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。
- ◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目録見書をよくお読みください。